

取材日：2015年3月10日



リウマチ



有明(荒尾・玉名)医療圏

## 内科医と整形外科医が「重なり合う」連携で 関節リウマチ治療を地域完結する医療体制に。

### Point of View

- ① 「一人ひとりでは微力であっても、システムとして関節リウマチを診られる体制」をめざす
- ② 難しい症例を持ち寄り、相談し合える「関節疾患病診連携の会」を設立
- ③ 内科医と整形外科医が「重なり合う」連携

公立玉名中央病院院長／企業長

中野 哲雄先生

公立玉名中央病院総合診療科

田宮 貞宏先生

公立玉名中央病院整形外科部長

稲葉 大輔先生

医療法人鶴整会  
鶴上整形外科リウマチ科院長

鶴上 浩先生

### 地域完結をめざした 新体制の構築

熊本県の有明（荒尾・玉名）医療圏における現在の関節リウマチ（以下、RA）医療は、公立玉名中央病院（以下、玉名中央病院）と地域の診療所による地域医療連携のもとで展開されている。

「RAは一定人口に一定割合発症するとされており、当医療圏にも多くの患者さんが存在します。短期間での完治が難しいRAは、他の慢性疾患同様、地域で完結する医療体制が求められます」（中野先生）

同医療圏でのRAの地域医療連携には、自然発生的に誕生した側面が見られる。

「私が開業した2003年早々には、出身病院である玉名中央病院との間にRA患者さんの紹介、逆紹介が動き出し、実質的な連携関係が生まれました」（鶴上先生）

「RA医療を地域で完結させるには、鶴上先生のような地域のご開業の先生方の存在が不可欠です。特に当院は公立病院として救急医療のプライオリティが高いので、地域医療連携によって慢性疾患に費やす負荷をできるだけ抑えねばなりません」（中野先生）

ゆるやかに形成されていったRA地域医療連携が大きく加速されたのは2008年前後だったようだ。生物学的製剤の導入が主な要因である。「それまで、生物学的製剤の投与につ

いては、患者さん自身が『そこまでして治さなくてもいい』と判断するケースが多く、稀に投与を望まれる方がいれば熊本市内の病院へ紹介していました。

しかし、永劫にそんな体制で良いはずがありません。この地域においても生物学的製剤の投与が可能な体制をつくらねばと感じていました」（鶴上先生）

「私も整形外科医ですから多くのRA患者を診てきており、近年、薬物療法が進歩によって大きなプレイクスルーがあったのを強く認識していました。

とても良く効く薬剤が次々に登場してきましたが、一方では新薬には強い副作用のリスクもあり、最新知

識なしでの導入は難しいのが現状でした。

そこで、2008年に院内の整形外科と内科の連携体制を構築。めざしたのは、『一人ひとりでは微力であっても、システムとしてRAを診られる体制』の構築です」(中野先生)

## 限られた資源を生かし 院内連携と地域医療連携を

「システムとしてRA患者を診る体制」とは、ひとつには、院内でRA患者を一手に引き受けてきた整形外科に呼吸器科・内科が連携する体制。「その意味で、2007年に呼吸器科・内科に田宮先生が着任してくれたのは福音でした。

田宮先生は日本内科学会総合内科専門医ですが、膠原病も学ばれていて臨床経験もある。RAの薬物療法をバックアップしてもらうには、最適な人材でした」(中野先生)

「院長から相談と指示を受けた際、状況とすべきことはすぐに理解できました」(田宮先生)

呼吸器科・内科が導入前のスクリーニングを担い、感染症、合併症などの対応を行う体制が完成し、生物学的製剤導入の環境が整った。「多くの患者さんを紹介、逆紹介している間柄の鶴上先生と私の間では、長く『生物学的製剤の導入可能な体制が必要だ』との問題意識が共有されていました。

院長の施策によって、それが実現できるとわかったとき、とても大きな希望を感じたのを覚えています」(稲葉先生)

鶴上先生にとっては、念願の体制と環境がかたちになっていったことになる。「公立病院の数量的な人的資源が潤沢でないことはよくわかっていますので、生物学的製剤導入のための体制づくりも容易でないとは覚悟していました。ゆえに、私からの願いは病院の先生方に過度の負担とならない範囲であるべきだと自覚したうえで、稲葉先生や医療福祉連携室に打診をつづけました。

それだけに、2008年の院内連携成立にはたいへんな達成感がありました」(鶴上先生)

## 連携をさらに広げる 「関節疾患病診連携の会」

現在、有明(荒尾・玉名)医療圏では約200名のRA患者が受診しており、うち約50名が地域医療連携に乗っている。ここまでの実績として、同連携には鶴上先生を含めた10の医療機関が参加しているという。

「私は現在、紹介患者に限定しRAの外來診察を行っています。重篤な症例がゆえに紹介された患者さんに混じって、生物学的製剤導入の必要がある患者さんもいます。導入を視野に入れての紹介患者は、最近は玉名

市外からも増えてきています」(稲葉先生)

2008年の新体制発足と同時に、連携のための「関節リウマチ治療連携シート」(【資料1】)が採用された。

また、地域医療連携を広げるために、「関節疾患病診連携の会」が発足して、2014年5月には第6回の会合が開催されている。幹事を務める稲葉先生は、同会のさらなる発展を期待する。

「連携参加医療機関が10では、まだ少ないと考えています。連携で救えると思われる患者さんのすべては救えていないと感じます。この会にもっと多くの先生方にご参加いただけるよう、どのような工夫が必要か検討しているところです」(稲葉先生)

「難しい症例、経験したことのない症例を多くの先生方が持ち寄り、相談し合える会になってほしい。RA診療の経験が少ないかかりつけ医は、『連携する、紹介する』と言っても、そのタイミングを見きわめるのが難しい点にハードルを感じ、つい尻込みをしてしまうものです。

『関節疾患病診連携の会』が、ハードルをなくす、あるいは低くするために有効に機能することを願います。気軽に足を運び、フランクにディスカッションできる雰囲気をつくっていきたいですね」(鶴上先生)

また、2011年には玉名中央病院がRAの市民公開講座を主催するなど患者啓発も進めている(【資料2】)。



左から中野先生、田宮先生、稲葉先生、鶴上先生

関節リウマチ治療連携シート

関節リウマチ治療連携シート

公立玉名中央病院  
医療福祉連携室専用FAX : \_\_\_\_\_ 依頼日: \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

| 患者氏名 | 性別  | 生年月日             | 患者連絡先             |
|------|-----|------------------|-------------------|
|      | 男・女 | 明・大・昭・平<br>年 月 日 | 住所:<br>Tel: _____ |

  

| 傷病名       | 関節リウマチ   |
|-----------|--|
| 既往歴       | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ ) |
| 薬歴        | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ ) |
| 現在服用している薬 | <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり( _____ ) |

  

治療を希望      →      以後

抗TNF療法施行を希望

●●●●(薬剤名)  
▲▲▲▲(薬剤名)  
玉名中央病院の判断に任せる

玉名中央病院にて初期導入

以後

自院にて治療

玉名中央病院にて治療

自院にて投与継続

玉名中央病院にて投与継続

生物学的製剤の投与は玉名中央病院にて、通常外来は自院にて行う

【備考: \_\_\_\_\_】

---

公立玉名中央病院への受診希望日  
(恐れ入りますが当院への関節リウマチ患者の紹介は月曜日をお願いします。)

|       |          |     |  |
|-------|----------|-----|--|
| 第1希望: | 月 日(月曜日) | 時 分 | 貴施設名: _____<br>担当医: _____ 先生<br>TEL: _____ |
| 第2希望: | 月 日(月曜日) | 時 分 |  |
| 第3希望: | 月 日(月曜日) | 時 分 |  |

「導入前スクリーニングから急変時の対応まで、内科医の担う役割は大きい。特に当地域のRA患者は高齢者が多く、その分、合併症リスクが高いと認識しています。

夜に開いている病院は当院しかないため、他のエリアで生物学的製剤導入後に呼吸器障害を発症した患者さんが救急に運ばれた事例もあり、そんなケースでは救急医の心づもりでしっかりと対応しています」(田宮先生)

RA医療が、主に整形外科医の担う疾患から内科医が主導する疾患に変わりつつある点について話を聞いてみた。

「RAでは、つい関節予後にばかり注意が偏りがちですが、私はそれよりも生命予後が大切だとの持論を機会があるごとに発信しています。そういった内科医的な視点を、整形外科医の先生方と共有することが大切だと感じます。

また主導権に関する見方ですが、私は今の流れを整形外科医と内科医の患者さんの『奪い合い』とは受け止めていません。

RA医療で求められるのは、『重なり合い』であり、うまく重なり合えば、患者さんにとって大きなメリットになります」(田宮先生)

「田宮先生のおっしゃる『重なり合い』によるメリットは、まさにそのとおりだと思います。内科医だけで診ても、いざ関節破壊に達した際の対応はできない。整形外科医では薬物療法に求められる広範な対応は仕切れない。重なり合うことによってやっと、患者さんを幸福にできるのです」(稲葉先生)

「つまりは、両輪なのです。どちらかが欠けても、どちらかが大きすぎても小さすぎても前に進まない。RA医療は今、内科と整形外科が両輪とな

重なり合うことで生きる  
内科医と整形外科医

限られた人的資源を最大限に生かしてRAに関する院内連携を成立させ、地域医療連携の成功をも引き寄せた中野先生は、同時期に鶴上先生、田宮先生、稲葉先生が同じ地域で医

療に取り組んでいたことを「幸運」だったと話す。

「少なくともこの体制の立ち上げ時に必要だったパワーは、3名の存在なくしてありえなかったでしょう」(中野先生)

田宮先生が連携体制成立以降の心がまえについて語る。

って発展させる時代なのだと思います」(鶴上先生)

## 2人の主治医に 相談できる患者

鶴上先生が、病診連携の本質について触れる。

「私見ですが、私は生物学的製剤の導入時期のRAは急性期疾患だと認識しています。

ですから、その時期は基幹病院である玉名中央病院に担っていただきしっかりと診ていただきたい。導入時のスクリーニング、外来化学療法室のような設備が必要な投与、そして副作用発症時などに対応していた

だければ、平時の診療は私たちが引き受けます。

これは、つまりは2人主治医制で単純に主治医が2人になった分だけ患者さんの安心は大きくなります。実際に見られる現象ですが、状況を的確に把握なさっている患者さんは2人の主治医に上手に受診しておられます。具体的には、『この話は病院へ』、『この心配はかかりつけ医へ』と判断して相談する。そんな患者さんが現れているのです。とても良い流れだと感じています」(鶴上先生)

「地域で完結する医療体制」をめざして構築されたRA地域医療連携だが、その「地域での完結」度合いは、いかほどなのであろうか。

「まだ未完と言えるでしょう。実際に、いまだに熊本市に出て生物学的製剤を用いた治療を受ける患者さんがいます。

ただ、一方、当院のキャパシティを見ると、現在の受け入れ患者が精一杯のところ、これ以上の人数を受け入れると体制的な破綻もあります。

人材の補充が簡単ではない公立病院にありがちな悩みに直面しています」(中野先生)

中野先生の危機は、鶴上先生も共有する。

「導入のすべてを基幹病院に委ねては、いつかオーバーフローするのではとの危機意識を持っています。逆紹介により、診療所でもある程度の導入ができる体制にしていかなければならないでしょう。そのために必須なのは、メディカルスタッフの充実です。

当院には現在、2名の登録リウマチケア看護師が在籍しますが、今後はさらにメディカルスタッフを充実させ、当院の分担を増やした分、玉名中央病院の負荷を減らしていきたいと考えています」(鶴上先生)

「公立病院の医師体制は、かなり流動的です。医師の流出による体制変更は宿命なもの。冒頭に私が触れた『一人ひとりでは不十分であっても、システムとしてRAを診られる体制』とは、医師の顔ぶれが変わっても医療の質には影響しない仕組みという意味でもあります。

この体制づくりを実現するには、鶴上先生のメディカルスタッフの育成への視点に大きなヒントがあるような気がします。体制を支える当院のメディカルスタッフが堅固で大きなノウハウを蓄積していれば、どんな医師が着任してもすぐに同質の医療が提供できるシステムになる可能性が高くなるでしょう」(中野先生)

【資料2】

### 市民公開講座の告知チラシ

市民公開講座  
**関節リウマチ治療の最前線**

日時 **2011年5月22日**  
14:00~16:00

会場 **玉名市民会館**  
玉名市岩崎152-2  
TEL (0968)-73-5107  
**入場無料**

総会  
公立玉名中央病院 院長 中野 哲雄 先生

●特別講演 [14:00~15:00]  
**「関節リウマチ治療の目指すところとその実現のために」**  
吉玉リウマチ・内科クリニック 院長 吉玉 珠美 先生

●パネルディスカッション [15:00~16:00]  
鶴上整形外科リウマチ科 鶴上 浩 先生  
吉玉リウマチ・内科クリニック 吉玉 珠美 先生  
公立玉名中央病院 整形外科 安岡 寛理 先生

お問い合わせ先: 田辺三菱製薬株式会社  
熊本市中区中島3-8 熊本大町ビル10F  
TEL.096-351-2232

共催: 玉名都市医師会  
田辺三菱製薬株式会社

#### 公立玉名中央病院

〒865-0064  
熊本県玉名市中1950  
TEL: 0968-73-5000

#### 医療法人鶴整会 鶴上整形外科リウマチ科

〒865-0015  
熊本県玉名市亀甲238  
TEL: 0968-72-2007